

交渉速報

J R貨物労組中央本部業務部

2018年6月7日

No.18

会社：夏季手当については慎重に見極めたい

組合：組合員の苦勞が全く反映されていない！再考せよ！

— 2018年度 夏季手当第4回交渉報告 —

中央本部は、本日10時より夏季手当第4回交渉を行い、会社は現時点の考え方について以下のように示しました。

- ①6月までの運輸収入については、コンテナが対計画101.3%、車扱は99.6%となり全体で101.2%となった。品目別では自動車部品や特積貨物の輸送が好調な一方、農産品や紙、石油が減送となっているが、年度累計では対計画で現時点2.6億円上回っている状況である。
- ②2年連続で鉄道事業部門の黒字は社員が努力した結果であり、改めて感謝を申し上げる。
- ③今年度は車両修繕費や動力費、線路使用料の増などのコスト増が見込まれており、昨年度より相当な上積みが必要となり、厳しい状況である。
- ④これまでの交渉における議論を踏まえ社内で議論してきた。その上で会社としては引き続き鉄道事業部門の黒字化を継続すること、経営自立計画の最終年度として計画したグループ全体で100億円の経常利益の達成は絶対条件であり、夏季手当について現時点では慎重に判断せざるをえない。

計画達成は要員不足の中で努力した結果である！

過去最高益の中で手当を抑制する理由はない！！

会社の考え方に対して中央本部は、以下の点について主張しました。

- ①昨年度の決算実績及び今年度の収入動向をみても会社の考え方は到底、納得できるものではない。事業計画の達成は極めて経営問題であり、その責任を組合員に押し付けることは絶対に認められない。
- ②貨物会社が2年連続の黒字を達成し、現時点においても計画を上回っているのは、一向に解決されない要員不足の中で、職場の組合員が休日出勤などの努力をしているからである。組合員の労苦に応える経営の姿勢が感じられない。
- ③社内誌で鉄道事業の黒字達成を大きくアピールしており、組合員は夏季手当に対して大きな期待を持っている。2年連続で黒字を達成した中で今出さないでいつ出せるのか。社員のモチベーション向上は必須であり、そのために夏季手当の満額回答によって行うべきである。経営陣は姿勢をただし、回答指定日に誠意ある回答を示すこと。

組合員のみなさん！本日以降、夏季手当獲得の闘いは「山場の闘い」に突入しました。会社経営陣は計画の達成のみを考え、職場で努力してきた組合員に報いる姿勢は一切感じられません。この会社経営陣の姿勢をただすために全組合員が結集して職場からの闘いをつくりだし、夏季手当満額獲得に向けた闘いを展開しようではありませんか！

中央本部は会社の姿勢を許さず、夏季手当満額獲得に向けて最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

以上

次回交渉（回答指定日）は6月15日（金）です。